

○今こそ、良いチームを築くチャンス！

今日は12月14日。皆さんは、『忠臣蔵』～赤穂浪士の討ち入り～を知っていますか？

赤穂藩主・浅野内匠頭が、江戸城内の「松の廊下」で吉良上野介に侮辱されたことに逆上して、斬りつけるという事件が起きました。第5代将軍の徳川綱吉は激怒し、浅野は切腹。一方の吉良は、眉間を斬られたものの傷は浅く、なんのお咎めもありませんでした。

江戸時代の慣習は「喧嘩両成敗」でしたが、吉良に何の罰もなかったことを不服とする赤穂の藩士たちは、藩主の無念を晴らすべく、赤穂藩の取り潰しの撤回運動を行います。しかし、願い叶わずに浪士となり、内密に吉良を討ち取ることを決めたのでした。

そして、浅野の月命日でもあった1702年(元禄15年)12月14日夜。筆頭家老であった大石内蔵助率いる浪士47名が吉良邸へ討入りし、仇討ちを成し遂げました。赤穂浪士たちへの採決は、「徒党を組んで暴挙に至った復讐」と判断され、切腹を命じられました。

今の時代、仇討ちは決して許されるものではありません。以前は、この時期になると『忠臣蔵』のドラマが放映されていましたが、最近あまり目にしなくなりました。

生徒の皆さんに考えて欲しいことは、クラスや部内で何か問題が発生した際、どのように考えて行動を取るかということです。自分のクラスメートや部員が何か問題を起こしたり、被害に遭ったときに「自分には関係ないから」となるのか、「もし自分だったらどうするか？」や「あの人のために何かできないか？」と考えるかでは、その後大きな違いが生じます。

人間ですから、失敗や間違いはあるものです。それを他人事にせず、自分に投影してみるのが大切です。考えることによって“自分の経験”となって生きてくるはずです。その繰り返しから、仲間との関わり方にも良い変化がもたらされる可能性が大いにあります。

同じクラス、部の仲間を蔑ろにせず、しっかり向き合って支え合うことで、より良いチームが築かれていきます。みんなで声を掛け合いましょう！

○こういう時に、人間の『本性』が出る！

先日のスポーツ番組で、競泳の日本選手権で優勝した、男子200m自由形日本記録保持者の松元克央選手のコメントを紹介していました。

松元選手は東京オリンピックでメダル候補ですが、目前に迫っていた大舞台が新型コロナウイルスの影響で延期となり、頭では「しかたの無いこと」と理解はしていたものの、なかなかモチベーションが上がらず、現実を受け止めることが出来なかったそうです。練習を再開しても、プールに足が向かない日もあったそうです。

そんなときに、彼のコーチが投げかけたのが「こういう時に人間の本性が出る」という言葉でした。松元選手は「落ち込んでばかりはいられない」と、この言葉を支えにもう一度目の前にある課題を1つずつクリアすることに集中しトレーニングを重ね、着実に力をつけています。

新型コロナウイルスが全国で猛威を振る中、私たちが生活する岩手県内にも拡大しています。これからしばらくの間、不自由で自粛を余儀なくされる日々が続きます。当然、モチベーションを保つことが困難になり、フラストレーションも溜まってくるでしょう。

それでも、この機会を絶好のチャンスと捉え、自分の在り方を見つめ直してみましよう！

“私は、人生の岐路に立った時、いつも困難なほうの道を選んできた。

by 岡本 太郎(芸術家)

